

Q9

ガンマグロブリンの注射後の麻しん風しん混合ワクチン接種はどのようにすればよいのですか。また、輸血後の接種はどうすればよいでしょうか。

A

ガンマグロブリンには、麻疹抗体及び風疹抗体が含まれているため、ガンマグロブリンの注射を受けた人は一時的に血液中に麻疹抗体及び風疹抗体を保有するようになります。

このような状態のときに、麻しん風しん混合ワクチンを接種しますと、血液中の麻疹抗体、風疹抗体によって麻しんならびに風しんワクチンウイルスが中和されてしまい、十分な免疫ができません。この間隔をあけるのは、より確実な免疫を与えるための方法です。

したがって、麻しん風しん混合ワクチン等の添付文書には、「輸血及びガンマグロブリン製剤投与との関係」について、次のように記載されています。

「接種前3カ月以内に輸血又はガンマグロブリン製剤の投与を受けた者は、本剤の効果が得られないおそれがあるので、3カ月以上過ぎるまで接種を延期すること。また、ガンマグロブリン製剤の大量療法、すなわち川崎病、特発性血小板減少性紫斑病 (idiopathic thrombocytopenic purpura : ITP) 等の治療において200mg/kg以上投与を受けた者は、6カ月以上（麻疹感染の危険性が低い場合は11カ月以上）過ぎるまで接種を延期すること。

本剤接種後14日以内にガンマグロブリン製剤を投与した場合は、本剤の効果が得られないことがあるので、投与後3カ月以上経過した後に本剤を再接種することが望ましい。」

麻しん風しん混合ワクチンのみならず、麻しんワクチン、風しんワクチン、おたふくかぜワクチン、水痘ワクチンといった生ワクチンの接種は同様に考えます。